

CASBEE®新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2010年版
CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版(BEI対応)
- 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.2.1)

1. 建物概要

建物名称 建設地 用途地域 建物用途 竣工年 敷地面積 建築面積 延床面積 階数 構造 評価の段階 評価の実施日	(仮称)東大通二丁目計画 中央区 東大通二丁目59番4 商業地域、防火地域、準防火地域 事務所, 2017年9月 竣工 1,772.84 m ² 1,333.62 m ² 7,540.83 m ² 地上6F、塔屋1F S造 実施設計段階評価 2016年7月26日	
---	---	--

2. CASBEE新潟の評価結果

	B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{57.2}{49.2} = 1.1$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	3.8		バリアフリー	4.0
			維持管理	4.5
			更新性	3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	3.1		耐震・免震	3.0
			信頼性	3.2
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	3.0		建物の熱負荷抑制	3.0
			自然エネルギー利用	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	3.3		節水	4.0
			リサイクル材の使用	3.0
			再利用可能性向上	3.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	3.0		生物環境の保全・創出	2.0
			敷地内温熱環境の向上	4.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	3.5		まちなみ・景観への配慮	3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	4.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

- ・バリアフリーに配慮した計画としています。
- ・施設の維持管理のためのスペースを設けています。

CASBEE®新潟

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.2.1)
CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版(BEI対応)

評価結果内訳

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)東大通二丁目計画	階数	地上6F、塔屋1F
建設地	新潟県新潟市中央区	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域、準防火地域	平均居住人員	880人
気候区分	地域区分V	年間使用時間	4,380時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年9月 竣工	評価の実施日	2016年7月26日
敷地面積	1,773 m ²	作成者	田中翔太
建築面積	1,334 m ²	確認日	2016年11月24日
延床面積	7,541 m ²	確認者	吉田健二



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.0

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.7

3 設計上の配慮事項		
総合 敷地に接する2本の道路に面してガラスカーテンウォールのファサードを設けることで、街並みに対して品格のある佇まいとなるように配慮した。 また、全熱交換器型の換気設備やLED照明を採用し、省エネルギー対策を行った。		その他 注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
Q1 室内環境 西側及び南側を全面開口とすることで自然光を取り入れると共に、室内からの眺望にも配慮した室内環境となるような計画とした。また、事務室のペリメータ部の温熱環境に配慮した空調計画とした。	Q2 サービス性能 施設管理室・倉庫・清掃用スペース等を各階に設け、清掃・維持管理に配慮した計画とした。	Q3 室外環境(敷地内)
LR1 エネルギー 全熱交換器型換気扇・LED照明等を採用することで、運用段階での省エネルギー性に配慮した。	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境 北側隣地と一体的な植栽計画を行うことで、地域の景観形成に貢献する計画としている。 また、東側敷地境界からセットバックすることで、隣地に建つ集合住宅の環境に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される